

佐賀市総合計画審議会 意見整理表（こども・教育・福祉）

No	基本政策	施策	ページ	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
1	基本計画			今村委員	多様性について考えると、基礎データの中に外国人の人口データも含めるべきではないか。外国人留学生、外国人労働者、その家族の問題など、佐賀県の中でも佐賀市はグローバル地域の課題先進地となると考えている。大人も子どもも含めて、外国人の日本語教育や、外国人の子育て問題についても大きなテーマとして考えて欲しい。また、人材確保の観点について、介護福祉士のコースの7割は留学生であり、観光人材も留学生が増えている。地方はより外国人人材のニーズがあり、市の施策として、外国人に対する移住・定住などの国際化についての施策を強く打ち出すべきではないか。	5月16日に開催した総合計画審議会において、今村委員から「国際」の観点についてご意見いただいたため、第1回総合・地域分科会において「横断的視点」のうち、「②多様性」の中に含める方向で整理していた。前回の分科会で改めて今村委員から「国際」の観点についてご意見いただいたため、新規項目として、「国際性」の項目を追加するといった内容で、総合・地域分科会において検討してもらうこととしている。	●横断的視点 それぞれの分野の枠を超えた横断的な視点として、「主体性」「多様性」「持続性」「柔軟性」の4つの視点から横断的に施策を展開します。 ②多様性…多様性を理解し、尊重する社会へ社会情勢や構造は常に変化しており、市民の価値観や生活スタイル、ジェンダーなどの多様性を認め合う社会の実現が求められています。 このような変化を互いに受け入れながら、市民がそれぞれの立場、特性、権利を理解し、尊重した上で支え合い、一人ひとりが豊かな暮らしを送ることができるように、みんなが積極的に協力する社会を目指します。	●横断的視点 それぞれの分野の枠を超えた横断的な視点として、「主体性」「多様性」「持続性」「柔軟性」「国際性」の5つの視点から横断的に施策を展開します。 ②多様性…多様性を理解し、尊重する社会へ社会情勢や構造は常に変化しており、市民の価値観や生活スタイル、ジェンダー、グローバル化などの多様性を認め合う社会の実現が求められています。 このような変化を互いに受け入れながら、市民がそれぞれの立場、特性、権利を理解し、尊重した上で支え合い、一人ひとりが豊かな暮らしを送ることができるように、みんなが積極的に協力する社会を目指します。 ⑤国際性…グローバルな視点を持ち、世界に開かれた社会へ 技術の進歩や世界経済との結びつきなどを背景に、グローバル化は急速に進展しており、経済や観光、教育などあらゆる分野においてグローバルな視点で物事を捉えることが求められています。 「日本国内の佐賀」だけでなく、「世界の中での佐賀」にも目を向け、地域の魅力を磨きながら発信し、世界に開かれた社会を目指します。
2	1子育て・教育		35	池田委員	2040年の目指す姿について、子どもたちの思いが計画内に反映されているかが気になっている。	10Pや11Pに記載のとおり、高校生ワークショップや大学生ワークショップを行っている。すべての意見が反映できているとは考えていないが、一定数の意見は聴取出来ているものと考えている。		
3	1子育て・教育	子どもたちの幸せと健全な成長を育む環境の充実	35	近藤委員	子どもたちの幸せは基本は家庭であり、家庭内で苦勞することが多いと感じている。苦勞している家庭をいかに支援するための、相談窓口や体制を整える必要があると思っている。 コミュニティスクール、地域の人、主任児童委員、まなざし運動など様々な人が関わって見守りをしてくれるが、立場上は実際の支援までは関与できない。実際の支援は子ども家庭課と連携する必要があるが、支援する側と支援される側に気持ちのずれ違いが生ずる場合がある。このずれ違いが家庭への支援の難しさで、大きな課題だと考えている。	意見をいただいた課題の解決に向けては、施策1④に記載している「専門的なサポートを受ける仕組みづくり」で取り組むことにしている。 体制としては、児童福祉、母子保健の両機能が連携・協働し、すべての妊産婦・子育て世帯・子どもに一体的に相談支援を行う「子ども家庭センター」の設置を計画している。 また、個々の家庭の課題・ニーズをくみとり、子どもの視点、子育て家庭と支援者が一体となって「サポートプラン」を作成し、効果的な支援を進めていきたい。 そのためには、関係機関との連携強化や地域関係者との協働も重要と考えている。		
4	1子育て・教育	多様な未来につながる教育の推進	35	吉村委員	「2子どもたちは、目標を持って主体的に楽しく学んでいる」の主なポイントの3つめ、「子どもたちがいつまでも楽しく学べる環境があること」について、2040年の目指す姿としては、「学ぶ楽しさを知り興味を満喫している」といったもつと掘り下げた記載だとより良いと思う。	「子どもたちがいつまでも楽しく学べる環境があること」については、環境整備の視点を記載しているが、その視点がより明確になるよう、「いつまでも」を削除し、「子どもたちが楽しく学べる環境があること」と記載を修正する。	子どもたちがいつまでも楽しく学べる環境があること	子どもたちが楽しく学べる環境があること
5	1子育て・教育	多様な未来につながる教育の推進	36	近藤委員	担い手不足について、人を増やすという観点だけでなく1人ひとりの能力・質を高めていくことも重要だと思う。人材育成についての施策についても記載があてはいいのではないかな。	教員等の能力や質を高める事業については、教育振興基本計画の中に盛り込むことを検討する。		

No	基本政策	施策	ページ	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
6	1 子育て・教育	多様な未来につなげる教育の推進	—	荒木委員	地域づくりへの参画と担い手不足については、すぐに解決できる問題ではないと思っている。この問題の解決のためには、長い目を見て、子どもたちの郷土愛を育てていき担い手になってもらうように繋げていくことが大事だと思う。	子どもたちの郷土愛を育てることについては、教育振興基本計画の中に盛り込むことを検討する。		
7	1 子育て・教育	地域全体で支える子どもの健全育成	36	谷口委員	取組み方針の「①家庭・地域・企業・学校が～」の中には、おそらくNPO法人や社会福祉法人等も含まれていると思うが、これらの団体についても記載して欲しい。参画するときには多様な手段があるということを明示したほうが良いと考える。	NPOや各種団体等地縁型・志縁型双方を包括する「市民活動団体」の表記を追加する。	①家庭・地域・企業・学校が一体となり～ ②リアルとオンライン双方の～	①家庭・地域・企業等・学校等が一体となり～ ②市民活動団体等と協働し、リアルとオンライン双方の～
8	1 子育て・教育	いつでもどこでも学ぶことができる生涯学習の推進	36	今村委員	大学との連携について、生涯教育の項目に記載があるが、佐賀県の大学が5つあるうちの4つが佐賀市に集中している現状を考えると、もっと大学との連携についての記載があっても良いと思う。	大学との連携については、協力協定を結ぶ等により、現在も様々な分野で事業を行っている。市全体の取組に関する内容であるため、P34各分野の目指す姿を修正する。 具体的な内容については、総合戦略や各分野で策定する個別計画でどのように内容を盛り込んでいくか検討していきたい。	④柔軟性・・・柔軟性を高め、変わり続ける社会へ AI等の新しい技術の進歩や新しい発想は日々生みだされており、世の中は急速に変化し続けています。これからの時代に適応していくためには、変化やその予測を機敏に察知し、素早く対応していく姿勢が求められます。時代に取り残されることがないように、変わることを恐れず、新しいものを次々と取り入れていくことで、変わり続ける社会を目指します。	④柔軟性・・・柔軟性を高め、変わり続ける社会へ AI等の新しい技術の進歩や新しい発想は日々生みだされており、世の中は急速に変化し続けています。これからの時代に適応していくためには、変化やその予測を機敏に察知し、素早く対応していく姿勢が求められます。時代に取り残されることがないように、変わることを恐れず、新しいものを次々と取り入れていくことで、変わり続ける社会を目指します。また、産学官連携など、様々な主体と連携しながら取り組むことで、より柔軟で多角的な視点からまちづくりを進めていきます。
9	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	38	坂井委員	独居の人が増えており、繋がりをつくるのが難しく情報がなかなか得られないと感じている。また相談体制はあっても、相談に繋ぐための体制確保も重要だと感じている。介護施設だけでなく元気な人でも集まることのできるような共同生活をするような場も必要ではないか。	独居や高齢者のみの世帯の高齢者が地域で健やかに、幸せに生活していただくため、医療や介護、健康づくりや介護予防、生活支援など的高齢者保健福祉に関わる機関などが連携を図り、支援を必要とする高齢者に一体的に提供される地域包括ケアシステムを深化、推進していくことが、独居老人等の生活支援体制構築につながるものと考えている。このため、①～③の施策を着実に進めていきたい。		
10	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	38	谷口委員	若年層の自殺率は先進国の中でも高いため、社会的孤立というフレーズは計画内に記載があっても良いと思う。孤立化を防ぐためにもみんなで繋がらうという考え方が大事だと思う。今後は、高齢者、若者、子どもなどの社会的孤立に関する横断的な課題が積みあがってくると思う。それに対応する形での教育・福祉という枠組みを超えて共同で人材を確保し担い手不足を解消する戦略と施策展開が必要となってくる。また、各支援者の役割（PTA、民生委員など）に応じた役割の整理が負担軽減のためにも必要だと思う。	・社会的孤立の問題について、取組方針に追加 ・人材の確保、担い手不足について、取組方針を新たに追加	○みんなが地域づくりに参加すること ③互いに見守り支え合うネットワークづくりを推進し、課題を抱える人の早期発見等、安心して暮らすことのできる地域づくりを進めます。	③互いに見守り支え合うネットワークづくりを推進し、 孤独・孤立などの課題を抱える人の早期発見等、安心して暮らすことのできる地域づくりを進めます。 ⑥担い手のすそ野を広げるために、これまで関わる機会が少なかった人や、多様な主体と連携を図ることで、誰もが様々な形で地域づくりに参加できる仕組みを作ります。
11	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	38	池田委員	高齢者・認知症・障がい者など特定の人を対象にしている印象を受ける。地域住民すべての人が対象ではないか。また、P.48のコミュニティの「2自分らしく幸せに暮らす社会の実現」について、地域共生社会の実現も含まれていると考えるため、健康・福祉の分野との関連性を整理する必要があるのではないかと。	・生活困窮者、障がい者、高齢者などの文言を削除し、就労をキーワードに誰にでも当てはまるよう⑤⑥⑦を集約修正 ・コミュニティの分野では、「共生社会」の実現とされているが、福祉分野においては「地域共生社会」として整理している。 【意見・質問一覧表】 主なポイント「みんなが地域づくりに参加すること」 ⇒「誰もが様々な形で地域づくりに参加できること」 →主なポイントを修正 →取組方針を追加	○みんなが地域づくりに参加すること ⑤生活困窮者等の就労や自立支援に向けて、行政・関係支援機関が連携を図り、地域社会への参加を促進します。 ⑥障がい者が地域で安心して自立した日常生活を送ることができるよう、就労による工賃向上の取組や地域生活支援を推進します。 ⑦高齢者の就労や社会貢献等の活動の場や機会を充実させることで、仲間づくりや生きがいを推進します。	○みんなが地域づくりに参加できること ⑤ 就労が困難な状況にある方が、自立して地域生活を送ることができるよう、行政・関係支援機関が連携を図り、就労支援を通して地域社会への参加を促進します。 ⑥担い手のすそ野を広げるために、これまで関わる機会が少なかった人や、多様な主体と連携を図ることで、誰もが様々な形で地域づくりに参加できる仕組みを作ります。

No	基本政策	施策	ページ	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
12				吉村委員	子育ても福祉も特定の人（課題感のある人）を支えないといけないということが強調されているが、今元気で過ごしていたり、楽しく子育てができている人への支援はどうなるのか、今後そういった人ができなくなってしまうのではないかと心配がある。また、アウトリーチの問題は横断的に考えていけないと思う。	<p>【子育て】・今元気で過ごされている方にも、佐賀市の取組や支援を知っていただくことは、非常に大切なことだと考えている。</p> <p>・子育て分野においては、令和7年度から「こども家庭センター」を設置して、こどもや子育てに関する総合的な窓口を設置して、全てのこどもに対する相談や支援に対応する。</p> <p>・P6「社会の潮流」③の中に記載しているように、こどもや若者、子育て当事者それぞれの状況に寄り添ったきめ細かなサポートとしてのアウトリーチの必要性は認識している。それぞれの事業においてアウトリーチで支援を届けていくことを念頭に事業実施をしていきたい。</p> <p>【福祉】・特定の人を支えないといけないということが協調されているという意見について、取組方針を修正</p> <p>・アウトリーチによる相談・支援は、〇多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること ①において行うこととしているため、修正なし</p>		【福祉】NO 1 1 参照
13	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	38	岡山委員	こども、若者、高齢者も含むそれぞれの世代の人が、困ったときにどこに相談したらいいのか分からないという問題について、視野を幅広く持ち体制の充実を図ることが大事だと思う。例えばNPO法人等との提携やチャット相談の窓口などの対策が考えられる。	<p>【子育て】子育て分野においては、令和7年度から「こども家庭センター」を設置して、こどもや子育てに関する総合的な窓口を設置して、市民の困りごとに一元的に対応する。相談に応じて、適切な窓口の案内等を行う。</p> <p>【福祉】NPO法人等との提携やチャット相談窓口などの対策という意見について、取組方針を修正</p> <p>【意見・質問一覧表】</p> <p>主なポイント「みんなが地域づくりに参加すること」</p> <p>⇒義務的に感じられる</p> <p>→主なポイントを修正</p> <p>「みんなが地域づくりに参加できること」</p>	<p>【福祉】〇多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること</p> <p>①どこに相談してよいか分からない方や複合化・複雑化した相談を抱える方に対し、アウトリーチによる相談支援や伴走型支援を推進します。</p>	<p>【福祉】〇多様な手段による相談の受け止めや支援体制があること</p> <p>①どこに相談してよいか分からない方や複合化・複雑化した相談を抱える方に対し、アウトリーチなど多様な手段による相談の受け止めや、伴走型支援を推進します。</p> <p>NO 1 1 参照</p>
14	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	37 38	今村委員	こども家庭庁では、「こども・若者育成支援」という言葉が使われている。「こども」という言葉だけでは説明できない若者という概念が、福祉からこぼれているのではないかとされている。市の将来を担う若者が元気でなければならぬ。計画内においては、若者についての言及があまりされていないと感じているため、若者の位置付けを改めて考えて欲しい。	<p>【02健康・福祉】P 3 8 の 1 地域共生社会を目指す福祉の充実は若者も含めたすべての市民を意識している。</p> <p>【01子育て・教育】若者が抱える社会課題の解決に向けた取り組みとして「01子育て・教育」に居場所づくりを掲げ、「学びを通して人と人がつながる場所がある」状態を目指す姿としています。</p>		
15	2 健康・福祉	日頃から取り組む健康づくりの推進	38	坂井委員	特定健診を受けてもらうための動機付けができるような仕組みがつかれないか。健診を受けない人はなかなか受けてくれないのが現状である。	現在、市報等での広報の外、特定健診を未受診の方全員に、年に2回受診の勧奨はがきを郵送している。今後は、未受診の過去の受診歴を分析し、勧奨はがきの内容に更なる工夫をおこなっていく。		
16	2 健康・福祉	地域共生社会をめざす福祉の充実	38			(事務局) 関連する主な個別計画に誤りがあったため修正する。	地域福祉計画、高齢者福祉計画	地域福祉計画・地域福祉活動計画、高齢者保健福祉計画